

戦後復興のシンボルとなった名古屋テレビ塔

—名古屋テレビ塔70年の歴史と活用策—

■名古屋テレビ塔の建設と特異な構造

1954(昭和29年)6月に竣工、開業した名古屋テレビ塔は、日本初の複数の放送局が共用する高さ180mの集約電波塔である。戦後復興のシンボルでもあるこのテレビ塔は、放送目的と同時に高さ90mの位置に観光展望台が設置され、多くの人々に親しまれている。



〔写真1〕 1段目の建設を見る人達

出典：https://www.nagoya-tv-tower.co.jp/history/



〔写真2〕 交差アーチ下の完成時の見物客

出典：https://www.nagoya-tv-tower.co.jp/history/

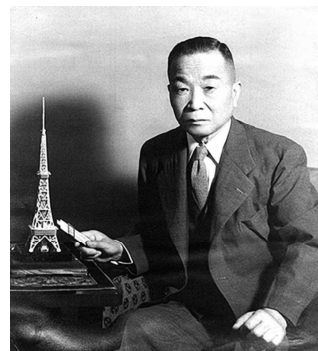


〔写真4〕 改修後の現在の姿 2020/09/21 撮影

講演会関連パネル

設計者の内藤多仲(1886-1970)は、東京の愛宕山のラジオ放送鉄塔を初め、東京タワーなど生涯に60以上の塔を設計し、「塔博士」とも称された。名古屋テレビ塔は内藤多仲が最初に手掛けたテレビ塔である。

テレビ塔の真下に将来地下鉄(現在の名城線)を通す計画があり、その条件で建設が認められた。そのため、脚を開き重心を低くした「だるま式構造」が採用された。脚部の基礎はわずか深さ6メートルしか埋め込まれていないが、脚部分には鉄筋コンクリート造の交差アーチが取り付けられており、地中深く埋めることができなかったが、台風の強風で塔が傾かない安全な設計となっている。



設計者 内藤多仲博士

出典：https://www.pref.yamanashi.jp/smartphone/ykj/index.html



〔写真3〕 開業時のテレビ塔

出典：『名古屋テレビ塔パンフレット』1954

■テレビ塔、解体の危機から再出発

2011(平成23)年、テレビ放送は「瀬戸デジタルタワー」からの電波に切り替わり、名古屋テレビ塔は電波塔使用料の消滅と耐震改修の多大な費用が必要なことから塔の解体論がでた。しかし、存続を望む多数の市民の声と各界からの支援で存続・耐震改修が決まり、2020(令和2)年9月に改修が完了して再出発をした。2022年には全国のテレビ塔では初めて「国の重要文化財」に認定された。

〔再出発後の活用策〕

- ・塔内ホテルを開業「The Tower Hotel Nagoya」(2020年)
- ・中部電力(株)と提携「中部電力 MIRAI TOWER」と改称(2021年)
- ・「開業70周年 ゴジラとタイアップイベント」(2024年)

名古屋テレビ塔は種々の施策で産業遺産の維持・保存と活用を両立させた全国的にも珍しい好例である。

(大澤和宏、渡辺治男)